

日本赤十字社医療センターで

呼吸器内科のスペシャリストに！

日本赤十字社医療センター呼吸器内科指導医



出雲雄大（部長），猪俣稔（副部長），久世眞之，栗野暢康，坂本慶太

後期研修医：高田康平（国立がん研究センター中央病院派遣中），藤本

一志，武藤豊（神奈川県立循環器呼吸器病センター派遣中），齊木彩

絵，伊藤佑，松本晴子

日本赤十字社医療センター呼吸器内科での研修（呼吸器内科専攻医・後期研修医）の特徴

- ・ 都心の基幹総合病院での豊富な臨床経験
- ・ 学術活動の推進（後期研修中に英語論文執筆）
- ・ 偏りの少ない呼吸器重点研修による呼吸器専門医取得への近道

都心の基幹総合病院での豊富な臨床経験

2020 年の実績

気管支鏡（EBUS-GS, EBUS-TBNA など）270 件
クライオバイオプシー：112 件
局所麻酔下胸腔鏡：3 件，CT ガイド下経皮肺生検：40 件
気管ステント・EWS：8 件
新規紹介患者数：約 900 人
間質性肺炎に対する抗線維化薬の導入，難治性喘息の抗体療法導入
その他，PET-CT，CT ガイド下経皮肺生検，胸腔鏡下手術，
放射線治療（サイバーナイフ，リニアック，トモセラピー），緩和ケア，
がんセンターボード，なども充実

呼吸器内科専攻医・後期研修医の実際の臨床経験

気管支鏡：検査者として約 80-100 件/年
気管ステント，EWS，サーモプラスティなども経験可能
入院受け持ち患者数：230～2700 例/年
外来：1 コマ～2 コマ/週（専攻医 2 年次以降より），
外来担当のべ患者数：1000～1600 例/年
肺癌化学療法（外来・入院），気管支喘息治療，
肺炎治療，非結核性抗酸菌症の管理，ICU 管理，
結核の診断・外来治療など，
多くの呼吸器内科の疾患・検査・治療が経験できます

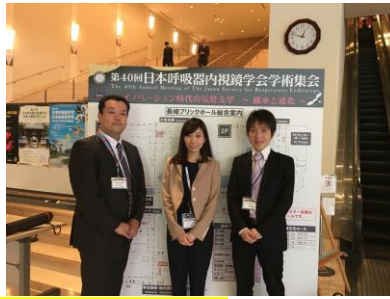
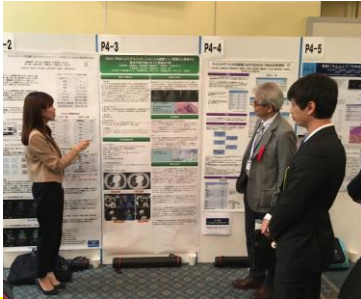


学術活動の推進

呼吸器学会，呼吸器内視鏡学会，肺癌学会，アレルギー学会や American Thoracic Society

(ATS), European Respiratory Society (ERS) をはじめとした国内外での学会発表の推進

すべての後期研修医・スタッフが臨床研究を行い英語論文執筆 (2020 年度:11 論文)



呼吸器重点研修による呼吸器専門医取得への近道

呼吸器重点研修タイプ (2 年型) を採用

3 年間の内科専門研修の内の 2 年間は当院呼吸器内科での研修+1 年間 (地域枠:1.5 年間) は連携施設での研修

内科専攻医からの呼吸器専門研修の概念図



入院診療 (受け持ち) : 10 名前後
 指導医—専攻医 (後期研修医) —初期研修医の屋根瓦式チームで診療し、
 毎週のカンファレンスで治療方針を検討します
 呼吸器内科全体の入院患者数は平均 30~40 名前後です

週間予定の一例

	月	火	水	木	金
午前	内科カンファレンス 病棟研修	病理カンファレンス 気管支鏡検査 (緊急) 病棟研修	リサーチカンファレンス 病棟研修	気管支鏡検査 (透視室) 手術室処置	部長回診 気管支鏡検査 (緊急) 病棟研修
午後	病棟研修 新患入院カンファレンス 気管支鏡カンファレンス	病棟研修 カンサーボード	気管支鏡検査 (透視室)	多職種合同カンファレンス 全入院カンファレンス	外来研修

連携施設

国立がん研究センター東病院呼吸器内科、神奈川県立循環器呼吸器病センター呼吸器内科、国立がん研究センター中央病院呼吸器内科、さいたま赤十字病院、飯塚病院呼吸器内科、東京大学呼吸器内科、千葉大学呼吸器内科、日本医科大学呼吸器内科、相模原日赤、沖永良部徳洲会病院、鶴岡市立荘内病院など多数の施設と連携 (後期研修医の希望で連携施設を追加することも相談可能です)

処遇等

- (1) 給 与 : 日本赤十字社医療センター雇用契約に基づき支給 約 600 万円~900 万円/年 ※時間外、賞与等を含む
- (2) 保 険 : 社会保険 (厚生年金・健康保険・雇用保険・労災保険) に加入 (3) 有給休暇 : 有 (労基法に基づく)
- (4) 宿 舎 : 無 (但し住宅手当 (諸条件有) および通勤手当の支給)

研修に関する問い合わせ先

日本赤十字社医療センター教育研修推進室 rinsyokensyu@med.jrc.or.jp または,

日本赤十字社医療センター呼吸器内科教育担当 (部長) 出雲 雄大 izumo_takehiro@med.jrc.or.jp